

■交歓ホール

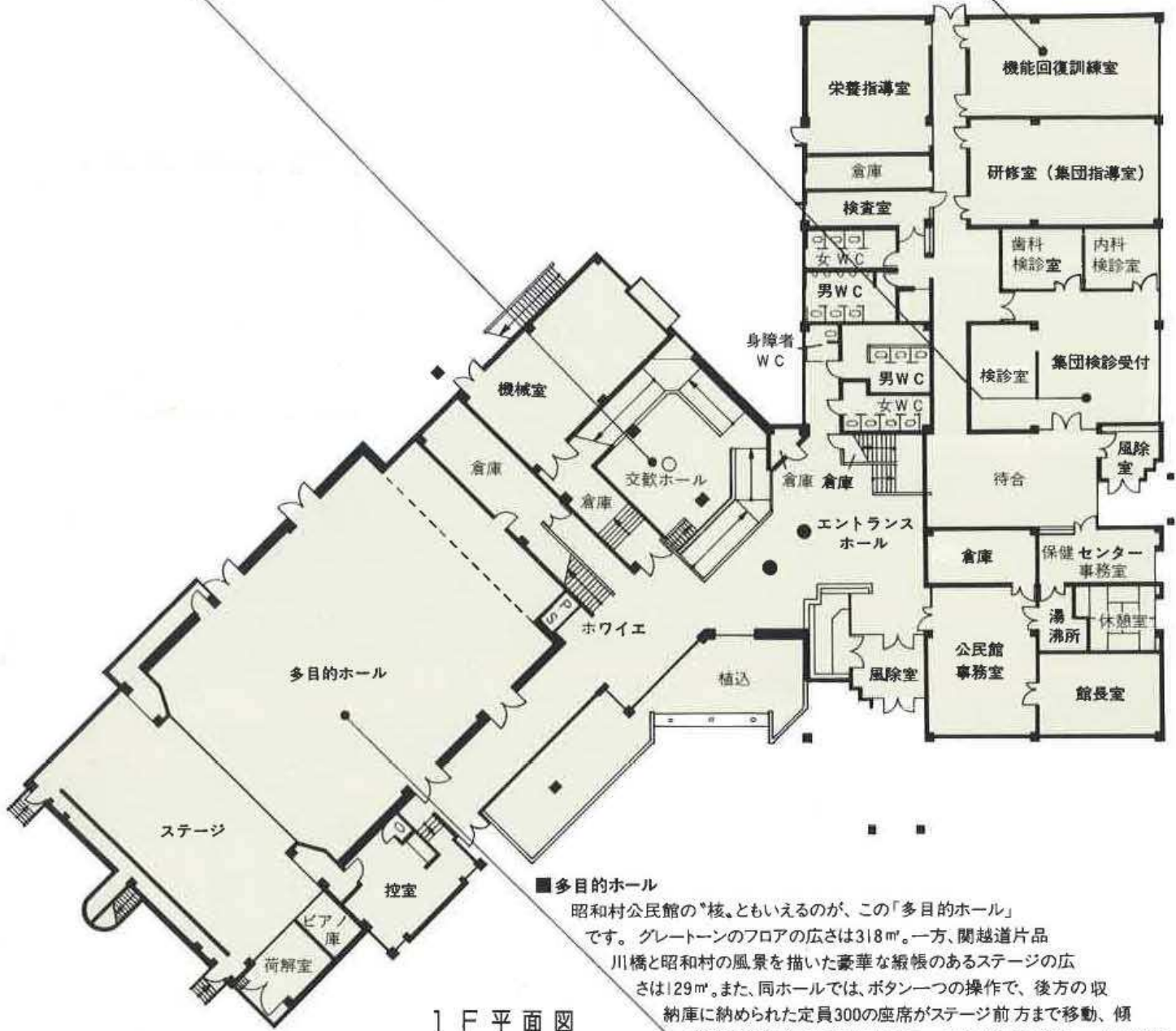
身障者も併用できるよう設計された二階へのスロープに、五角形型で囲まれた「交歓ホール」は、憩い、やすらぎ、そして、出会いと語り合いの空間。中央には現代芸術品などが飾られ、また、イスは情熱を象徴したオレンジ色の配色。いつでも、なごやかなムードを演出します。

■集団検診室

検診室、歯科検診室、内科検診室が各コーナーに効率よく配置された「集団検診室」。ホワイトを基調とした衛生的な雰囲気。しかも各検診室の間どりは、集団検診でもスムーズな流れを生む配置です。一般的に「検診」というと、気分も重なりがちですが、受診者に安心とやすらぎを与えるつもりです。

■機能回復訓練室

「第三の医学」とさえいわれるリハビリテーション(機能回復訓練)——その需要は、高齢化社会にもなると、ますます高まっています。訓練室は、天井と壁が白、フロアがトーンのあたかさと明るさがたどようつくりになっていて、各種のリハビリ機具があり、明日の健康のため、だれでも思う存分、訓練に励めるようになっています。



1 F 平面図

■多目的ホール

昭和村公民館の「核」ともいえるのが、この「多目的ホール」です。グレートーンフロアの広さは318㎡。一方、関越道片品川橋と昭和村の風景を描いた豪華な緞帳のあるステージの広さは129㎡。また、同ホールでは、ボタン一つで、後方の収納庫に納められた定員300の座席がステージ前方まで移動、傾斜型の観客席をわずか7分でセッティングしてしまう——という電動式移動椅子も採用。そのほか、後方には、ホール内の音響設備や照明設備、映写設備などがすべて操作管理できるテクニカル・オペレート・ルームもあります。フロアのままなら、レクリエーション、ダンス、展示会などに、また、座席をセットすれば、コンサート、演劇、研修会、講演会、映写会などに利用できる、文字通りの「多目的」施設です。近代設備と最新機器をそなえた「未来型ホール」といえます。